

港湾空港部
～ 概要 ～



国土交通省 九州地方整備局

港湾空港部

港湾空港部の紹介

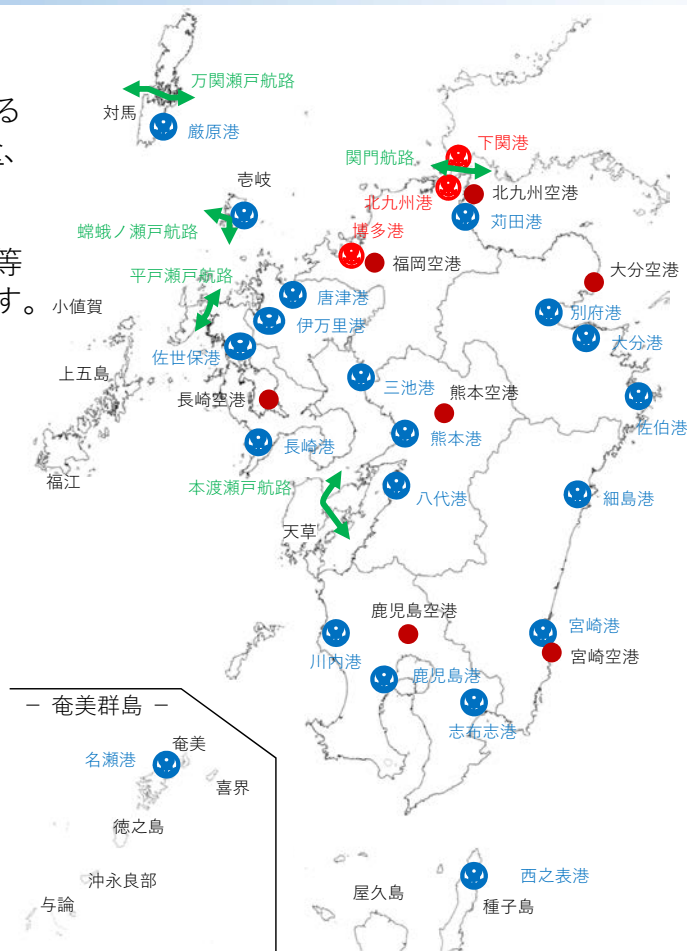
港湾空港部の仕事

私たちの暮らしを支え、活力のある地域づくりに貢献するため、九州管内の港湾(港湾海岸含む)・航路の整備・保全、空港の基本施設の整備等を行います。

九州地方整備局のプロジェクトは、民間事業者、自治体等の関係機関や様々な部署と互いに連携しながら進めています。

<主な仕事>

- ① 企画・計画・事業調整
 - ・事業の計画段階の仕事
- ② 調査・設計
 - ・事業個所の現場条件確認(測量、土質調査等)
 - ・構造物等の設計・施工方法検討
- ③ 積算・契約・工事
 - ・事業実施のため工事の発注・監督



〔九州管内管轄の港湾・空港〕

仕事のイメージ

①企画・計画・事業調整



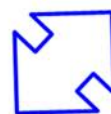
- ・地元要望の把握、企画
- ・関係機関(県、市、他省庁)との調整
- ・事業等の国民への説明責任
- ・新規事業の計画・予算要求



②調査・設計



測量調査会社
コンサルタント



- ・現地の測量、調査の発注監督
- ・事業着手の手順、施工方法の検討、関係者との調整
- ・設計の発注監督

③積算・契約・工事



建設会社

- ・工事入札価格の算出
- ・工事の発注監督
- ・施工物の品質確認や出来型検査、指導
- ・施工時の安全確認、指導
- ・関係者との調整

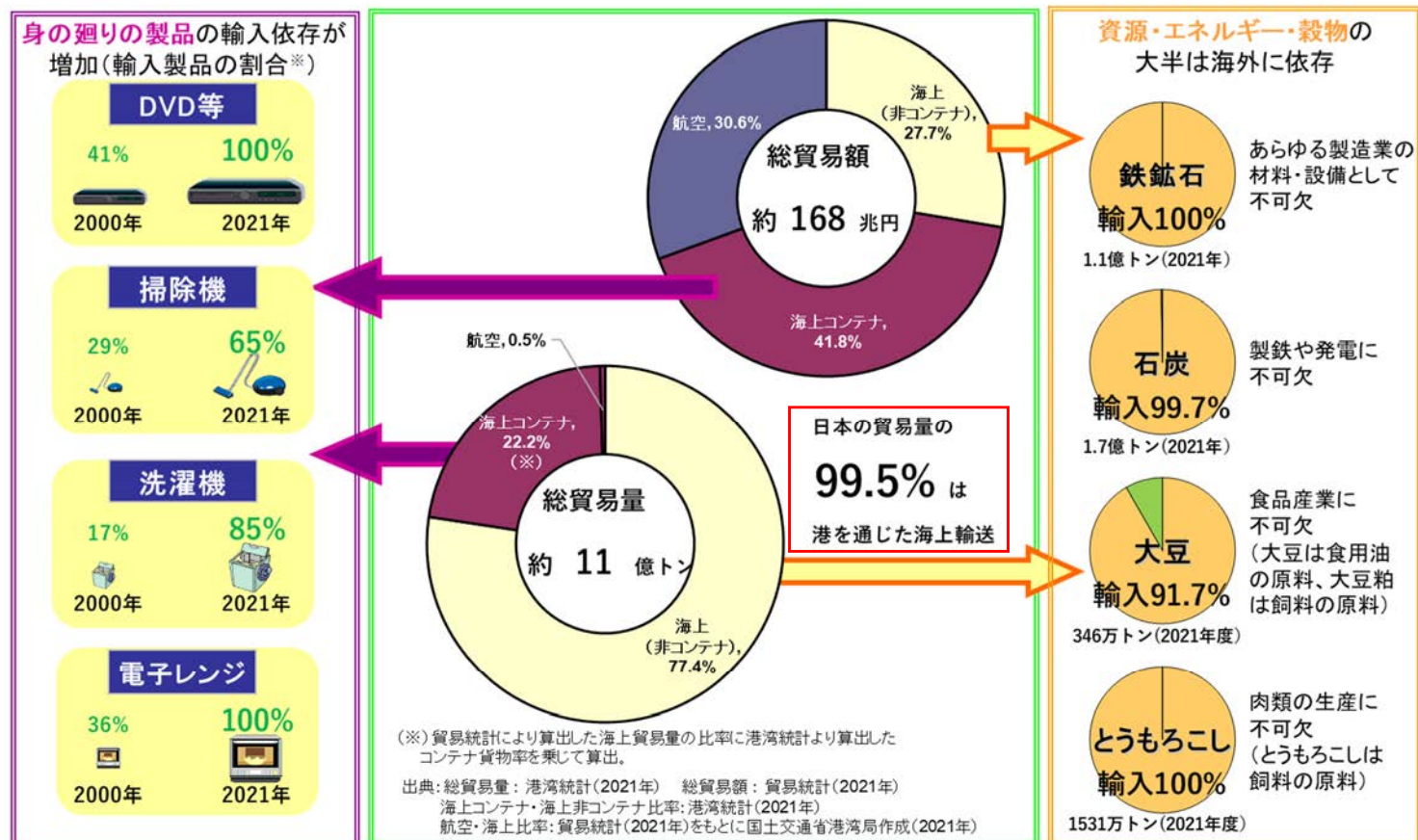
仕事の様子



港湾や空港の必要性

我が国は、資源やエネルギー等を輸入し工業製品を輸出する「貿易立国」です。貿易にとって、海外との玄関口である港湾、空港は必要不可欠な存在です。最近では、家電等の身の廻りの製品も輸入依存が増加しています。空港では半導体など付加価値の高い製品などを取扱っています。

我が国の貿易量・貿易額の構成比



（※）輸入製品の割合＝輸入量÷国内供給量×100、国内供給量＝生産量＋輸入量－輸出品
 「家電産業ハンドブック」（（一財）家電製品協会）より算出

出典：石炭、鉄鉱石：日本の海運SHIPPING NOW
 大豆・とうもろこし：農林水産省「食料需給表（概算）」



貿易の様子（博多港アイランドシティ地区）

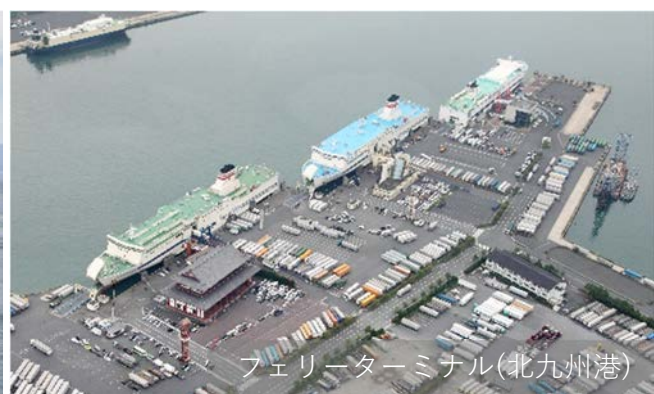
港湾整備事業

港湾の役割とは

①物流・産業 我が国の経済活動、国民生活を支える輸送拠点



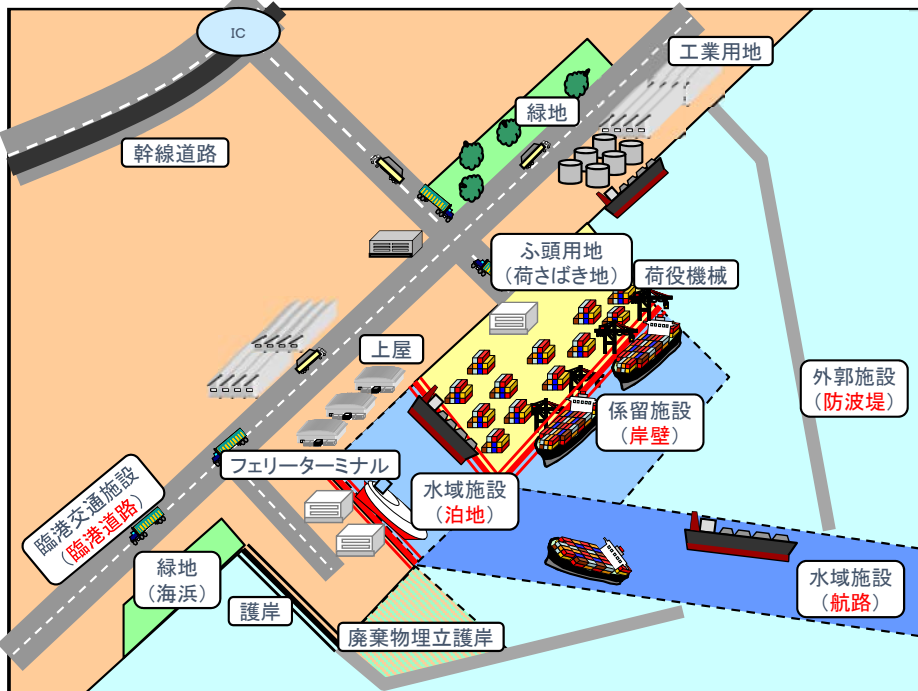
②人流 クルーズやフェリーなど船旅の玄関口



③防災 地震、津波、台風などの様々な災害に耐える港湾を構築



港湾整備施設（イメージ）



●整備局で整備する主な施設

係留施設（岸壁）

船舶を接岸、係留させて、貨物の積み卸し、船客の乗降等の利用に供する施設。

水域施設（航路）

船が港に出入りするために設けられた水路。

水域施設（泊地）

港湾内で船舶が安全に停泊することのできる水面。

外郭施設（防波堤）

波浪から港内を保護し、港内の静穏を保ち荷役の円滑化、船舶の航行、停泊の安全を図る施設。

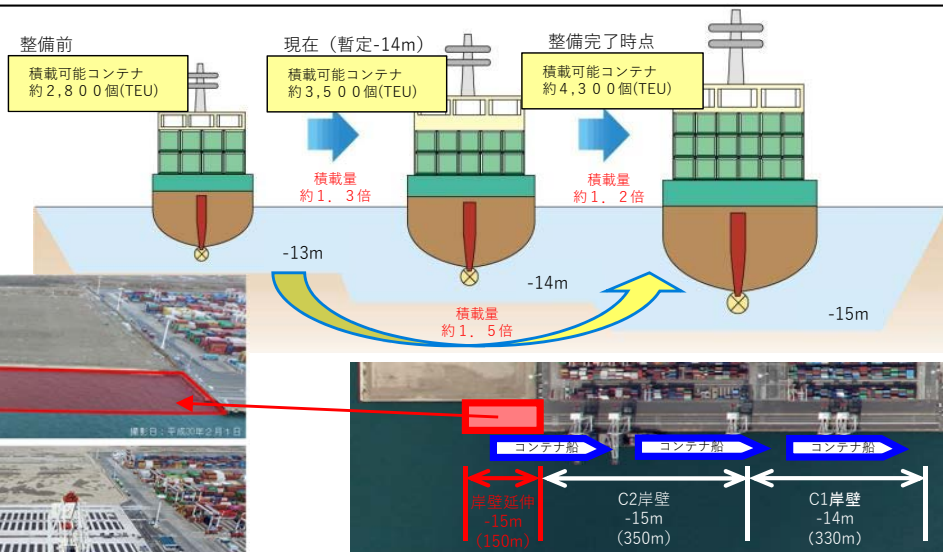
臨港交通施設（臨港道路）

ふ頭間の連絡やふ頭と背後幹線道路を結ぶ交通施設。

港湾整備事業の事例

■博多港（アイランドシティ地区）国際海上コンテナターミナル整備事業

コンテナ船の大型化およびコンテナ貨物の需要の増大に対応したコンテナターミナルを整備し、海上輸送基盤を強化することで、輸送コストが削減され、国内産業の国際競争力の強化が図られます。



コンテナ輸送

コンテナという形にユニット化することで運搬、荷役がしやすくなり様々な貨物の混載も可能。

工業製品、食料品、電化製品、衣類など身の回り品の多くを運搬します。

長さ 6m (= 20Ft)



※ 20Ftコンテナ 1 個を 1 TEU という単位で表します。

コンテナを運ぶ船が大きくなり、一度に沢山の物が運べることで、
私たちが購入する生活用品等が安く手に入り、国民の生活を支えます！！

■クルーズ船の受入環境整備

クルーズ船の寄港需要に対応した岸壁等の港湾施設の整備を行うことで、クルーズ船入港による観光収入増加や新たな雇用の創出、国際交流の促進など地域の活性化に寄与します。

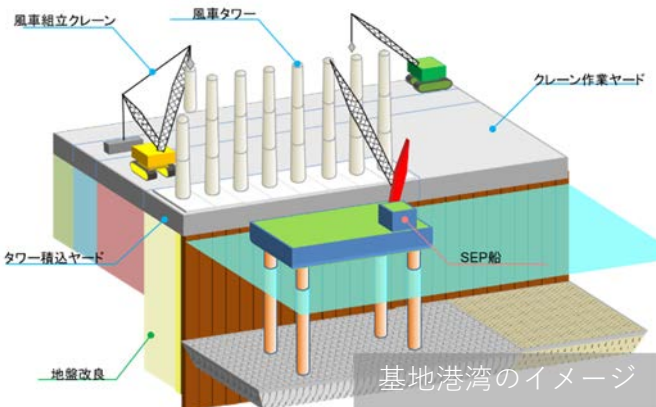


■北九州港（響灘東地区）国際物流ターミナル整備事業

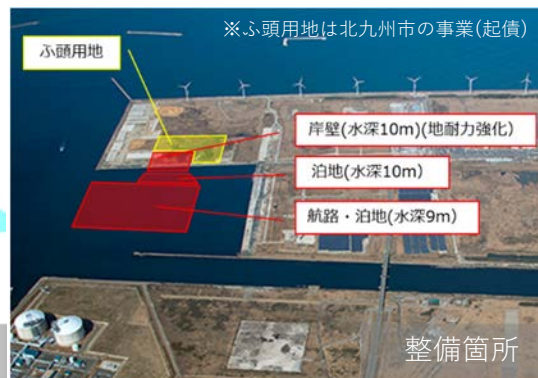
洋上風力発電設備の効率的な輸送・建設を可能とし、洋上風力発電の導入促進を図るため、海洋再生可能エネルギー発電設備等拠点港湾（以下、「基地港湾」）として、岸壁等の港湾施設の整備を行います。

基地港湾では、風車部材の搬入、タワー部分の組立て、設置を行う作業船（SEP船）に積込を行います。

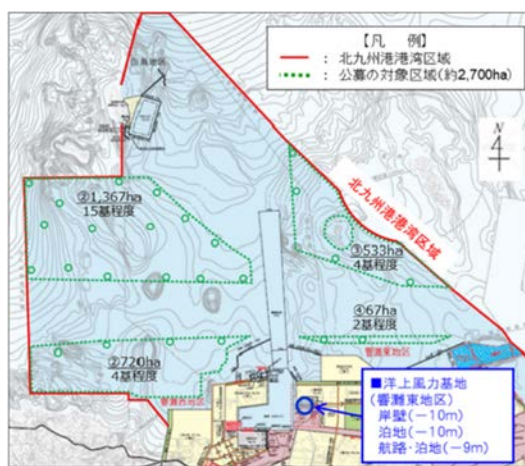
背後のヤードは、重厚長大な風車部材の取扱いができる地耐力と広さを有します。



基地港湾のイメージ



整備箇所



北九州市は、平成29年2月に北九州港響灘東・響灘西地区の沖合いの港湾区域内において洋上風力発電施設を設置・運営する事業者（優先交渉権者）に「ひびきウインドエナジー（株）」を選定（改正港湾法に基づく全国初の実例）し、平成30年1月に北九州市と同社は基本協定を締結しました。

ひびきウインドエナジー（株）が設置する洋上風力発電は、9,500kW級風車を25基設置する計画（一般家庭 約17万世帯分の電力）であり、令和8年3月の運転開始を目指しています。

■鹿児島港臨港道路整備事業（鴨池中央港区線）

鹿児島港臨港道路の一部を形成し、港湾物流のボトルネックとなっている鴨池港区から中央港区間の整備を行うことで、鹿児島港内の円滑な港湾物流を確保し、幹線道路の負担軽減による交通渋滞緩和に寄与します。



臨港道路の整備状況



現場見学会開催



事業進捗説明会



コミュニティホームページ掲載（工事工程表）

地域住民の方へ事業の理解を深めてもらうため、現場見学会や事業進捗説明会の開催、地域のコミュニティと連携した工事工程の周知など行っています。

海岸事業

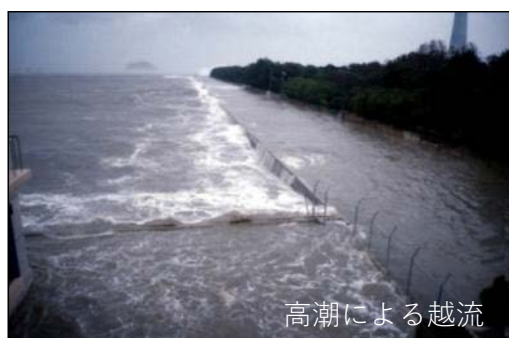
港湾海岸とは

日本の海岸線の総延長は約35.3千kmと長大です。護岸等により防護する必要がある海岸として、約13.7千kmが海岸保全区域に指定されていますが、周辺の地域特性により所管する省庁が異なり関係省庁が分担して所管しています。

整備局（港湾空港部）では、大規模地震・津波災害や昨今頻発している深刻な高潮災害等に対して、国民の安全・安心を確保するため、港湾区域内及び港湾隣接地域の海岸（港湾海岸）の整備を行っています。

港湾局所管の港湾海岸の特徴として、海岸保全区域延長の全体の約28%ですが、**防護人口では全体の56%を占め、背後に人口と物流・産業機能が高密度に集積**しています。

<港湾海岸の被災事例>



港湾海岸の被災は、市街地や物流・産業機能へ甚大な被害をもたらします

海岸事業の事例

■下関港海岸保全施設整備事業

台風襲来等に伴う高潮により発生する浸水災害から、地域住民の生命・財産を防護すること、立地企業の経済的損失を回避すること等を目的として護岸等の整備を行います。

<長府・壇ノ浦地区の整備状況>



自転車歩道の拡幅や公園整備と連携して海岸の利用向上がなされ（平成27年に壇ノ浦コーストと命名）、歩行者の利便性・快適性の向上のみならず、交流人口の拡大にも寄与しています。

【整備前】

【整備後】



近接する医療センターやマンション等の利用者・住民の利活用や景観に配慮した構造とすることで、利便性・快適性の向上に寄与しています。



<利用者の声>



眺めが非常に良く、バリアフリーにもなっており、当院のリハビリにも利用し喜ばれております。
医療センター

以前と比べると安心して営業できると感じています。関門海峡の景色も見ることが出来るようになっていてお客様にも大変好評です。
ホテルマネージャー

■大分港海岸保全施設整備事業

南海トラフ地震・津波や台風による高潮に備えるため、護岸等を整備することで、大分港海岸の背後の臨海工業地帯の浸水被害を軽減・防止し、経済・産業を支える企業の災害リスクを軽減し企業活動を継続することが可能となります。



【整備前】



【整備後】
（イメージ）



護岸の高上げ

大分港海岸背後地域の浸水想定区域



整備箇所

■指宿港海岸保全施設整備事業

侵食された砂浜の再生、侵食対策を行うことにより高波に対する防護機能の改善を図り、高潮・高波等から背後の住宅や観光施設等への越波・浸水被害を軽減することを目的として整備を行います。



砂浜の侵食



護岸越波状況



指宿港海岸背後地域の浸水想定区域及び宿泊施設等

指宿市内における
年別観光消費額（推計値）
（百万円）

	H29	H30	R1
宿泊	24,724	27,934	23,491
日帰り	12,365	15,574	14,636
総計	37,089	43,507	38,127

出典：指宿市の観光統計



◎一部供用箇所の状況



海岸を利用する住民の声

●海岸がきれいになりとてもありがたい。散歩したりリラックスされた人を見かけるとうれしい。



海岸を利用する住民の声

●海岸に行きやすくなったのでマリンスポーツをやりたい。
●海岸に来る人が増えている。



空港整備事業

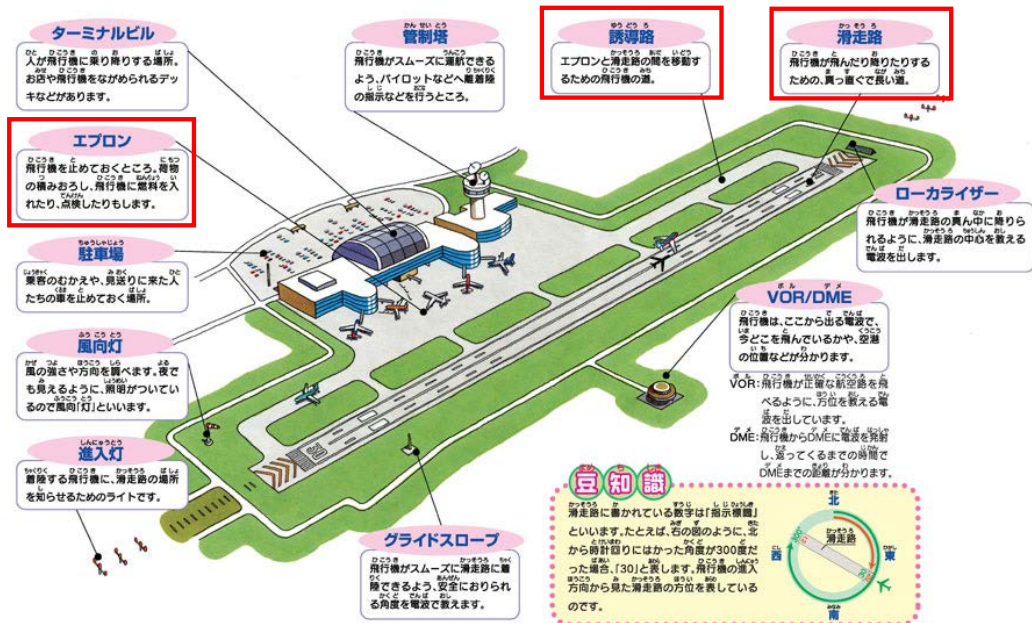
空港の役割や整備

航空輸送は、人やモノを速くの場所へ高速に、安全確実に輸送することで、生活や産業に密着した身近な高速交通手段の一つとして必要不可欠な存在になっています。

国内各地はもとより世界各国を結ぶ航空ネットワークの充実化、さらには信頼性とスピードを持った、グローバルな交通機関として発展を遂げています。

航空機の安全運航・定時制の確保に必要な施設の整備を行い、利用者に優しい空港づくりに取り組みます。

整備局では、空港内の基本施設（滑走路、誘導路、エプロン）の整備を行います。

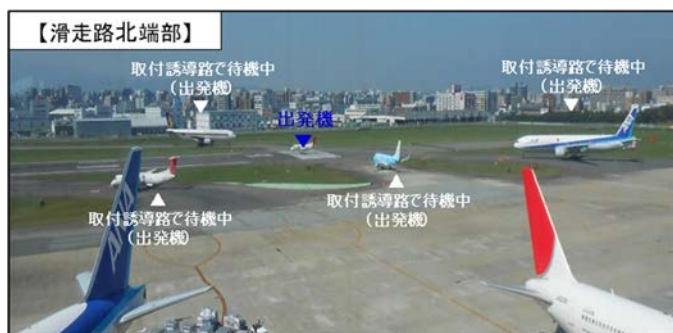


空港整備事業の事例

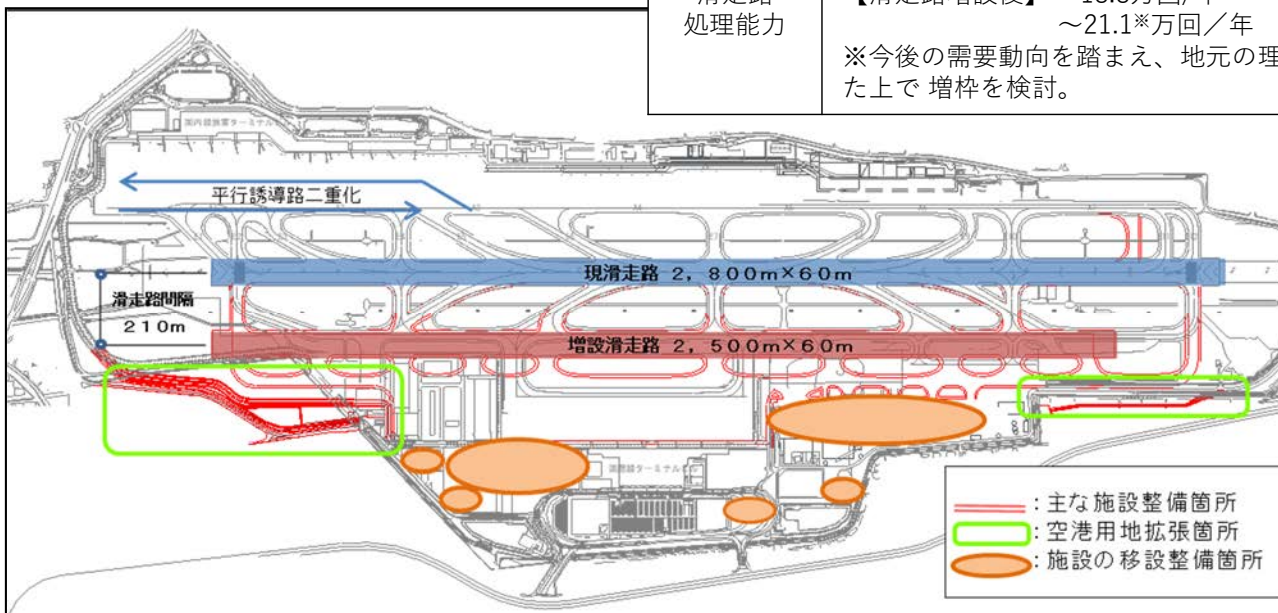
 : 赤枠の基本施設を整備

■福岡空港滑走路増設事業

航空機の混雑・遅延の解消及び将来の航空需要への適切な対応を図るため、滑走路の増設整備を行います。また、災害時の輸送手段の機能向上に加え、観光等の促進、地域経済への波及効果も期待されます。



朝夕のピーク時間帯においては、混雑や遅延が常態化しており、現状の滑走路1本において、これ以上の増便は厳しい状況



滑走路
処理能力

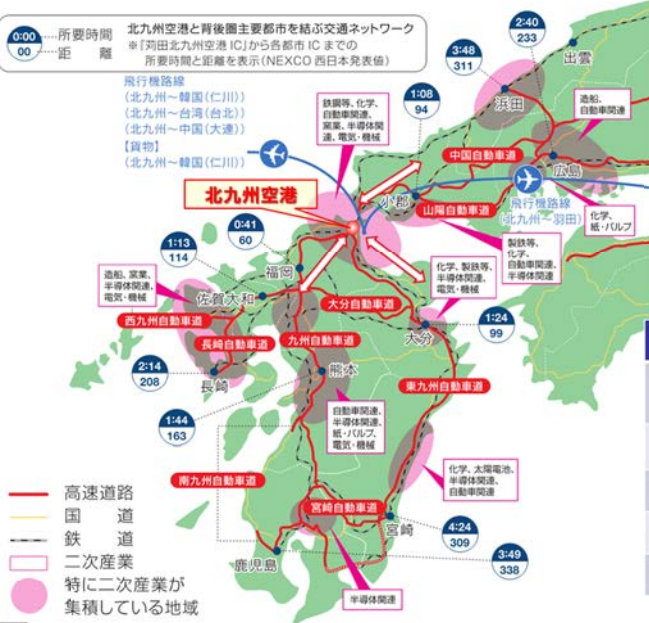
【現状】 16.4万回/年
【誘導路二重化後】 17.6万回/年
【滑走路増設後】 18.8万回/年
～21.1※万回/年

※今後の需要動向を踏まえ、地元の理解を得た上で 増枠を検討。

北九州空港滑走路延長事業

北九州空港は、北米・欧州との定期便就航を可能とする航空貨物需要が背後圏において見込まれていることから、滑走路延長の整備を行うことで、長距離国際貨物機の就航が可能となり我が国の製造企業の国際競争力向上に寄与します。

- アジアの主要都市に近接している。
- 背後圏には製造業を中心とした第二次産業が集積しており、空港への物流ルートとして、本州、東九州、西九州の3方向に伸びる高速自動車道路の結節点に近接するなど貨物空港として最適な立地条件を有している。



北九州空港における貨物量の推移



主な国際貨物の種類

輸出貨物	輸入貨物
半導体関連製品: 半導体製造装置、半導体関連部材、シリコンウエハー	電子部品: 電子部品材料
自動車関連: 部品、プラスチック	自動車関連: 部品
電子デバイス: ICチップ、コネクタ	生花: 切り花
生鮮品: 鮮魚、牛肉、果物、野菜	生鮮/飲料品: 鮮魚、嗜好品、生体動物
医療品: 医療用製品	アパレル関連: ファストファッション

B747-8Fの運航のために必要な滑走路長

就航先都市	路線距離 (NM)	必要滑走路長 B747-8F	必要滑走路長 (参考) B777F
ロサンゼルス (LAX)	5,176	2,940m	2,530m
アムステルダム (AMS)	4,931	2,850m	2,440m
フランクフルト (FRA)	4,930	2,850m	2,440m
サンフランシスコ (SFO)	4,888	2,830m	2,429m



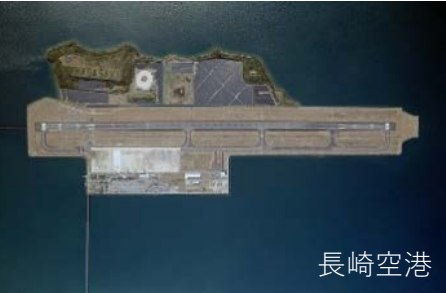
滑走路長として 3,000mの確保が必要



整備箇所

九州管内管轄の空港（福岡空港、北九州空港除く）

空港内の基本施設（滑走路、誘導路、エプロン）の耐震化対策、老朽化対策、浸水対策など各空港にとって必要な整備を行っています。



長崎空港



熊本空港



大分空港



宮崎空港

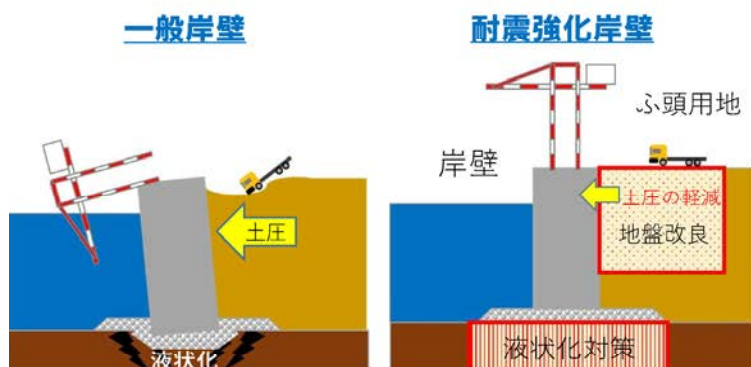


鹿児島空港

防災関係

耐震強化岸壁の整備

耐震強化岸壁とは、大規模地震に備えて耐震性を強化した係留施設です。緊急物資の輸送や輸出入による経済活動を維持するために活躍します。



計画された岸壁が整備されていない港湾
72港／114港(63%)

- ：計画された岸壁が整備済みの港湾(42港)
- ：整備済の岸壁数が計画を充足していない港湾(51港)
- ：計画はあるが、1岸壁も整備されていない港湾(21港)



※岸壁数は緊急物資輸送用と幹線貨物輸送用の合計
※令和5年3月末時点

■耐震強化岸壁数[令和5年3月末時点]

計画岸壁数	内供用済	整備率
407	210	52% (約5割が未整備)

※国土交通省港湾局調べ
※重要港湾を対象とし、係留施設として位置づけられている岸壁

■令和3年福島県沖を震源とする震度6強の地震の事例



一般岸壁



耐震強化岸壁



令和2年豪雨災時には海上保安庁の巡視船が
着岸し被災地を支援

「命のみなとネットワーク」 緊急支援物資輸送訓練

近年、気候変動の影響により、これまでに経験したことのない豪雨による洪水や土砂災害等の気象災害が多く発生。陸路が寸断し孤立化した被災地等において、緊急物資や救援部隊、被災者等の海上輸送の事例が増えつつあります。

災害時の陸路分断等を想定して、“みなと”の機能を最大限活用して海上輸送による救助・救援や物資輸送等の災害対応支援を行うため、各地域で船舶を活用した防災訓練の実施など「命のみなとネットワーク」の形成に向けた取組を進めています。

令和5年3月 佐敷港（熊本県芦北町）



港湾業務艇を活用した緊急支援物資輸送・被災者搬送訓練

令和6年5月 志布志港（鹿児島県志布志市）等



海洋環境整備船を活用した緊急支援物資輸送訓練

TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）

大規模な自然災害に際して、被災状況の把握や被害の発生及び拡大防止など被災地の早期復旧のため技術的支援を迅速に実施しています。

令和2年7月豪雨

令和2年7月活発な梅雨前線により、熊本県を中心に九州全域で記録的な大雨の影響により球磨川をはじめとする河川から大量の流木等の漂流物が八代海及び有明海へ流出しました。

有明海浅海域では福岡有明海漁連と連携して流木等の回収も実施しました。



支援台船による回収



福岡有明海漁連との連携

令和3年輕石対応

令和3年8月に海底火山「福徳岡ノ場」が噴火し、軽石の漂流・漂着による船舶の航行や漁業に影響が生じました。

沖縄総合事務局と鹿児島県庁へ、全国からTEC-FORCEを派遣し、港湾の利用調整と軽石回収を実施しました。

<運天港(沖縄県)における軽石漂流>



鹿児島県庁と打合せ



与論港への燃料タンカー船の入港調整



軽石漂流（令和3年11月8日）



軽石除去（直轄災害復旧事業）



軽石除去後（令和4年8月3日）

令和6年1月能登半島地震

令和6年1月1日に能登半島地方を震源とするマグニチュード（M）7.6、最大震度7の地震が発生。九州地方整備局が所有する浚渫兼油回収船「海翔丸」を令和6年1月3日、被災地（石川県）へ派遣し、被災地への支援物資輸送を実施しました。



支援物資の積込（北九州港）



被災地へ出港



支援物資陸送
（七尾港から輪島市へ）

【輪島市への支援物資輸送】

飲料水（ペットボトル）1,270本
食料品 約1,400食分
衛生用品（おむつ）約1,300枚 等

【支援物資輸送及び作業行程】

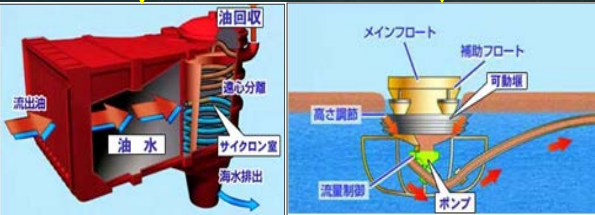
- 1月3日 支援物資積込
被災地（石川県）へ出港
- 1月5日 七尾港（石川県）へ入港
支援物資荷下し
七尾港から輪島市へ北陸地方整備局
にて陸路で支援物資を輸送
- 1月8日 七尾港を出港
- 1月10日 北九州港へ帰港

環境整備事業等

海洋環境の整備

航行の安全確保や海域環境の保全を図るため、瀬戸内海の海域では「海翔丸」「がんりゅう」、有明・八代海の海域では「海輝」「海煌」にて、海面に浮遊するごみや油の回収を実施しています。

【海翔丸の油回収機能】 油回収器装備位置(両舷に装備)



舷側設置式油回収器 (主に低粘度の油で使用) 投げ込み式油回収器 (主に高粘度の油で使用)



油回収「海翔丸」



漂流物調査



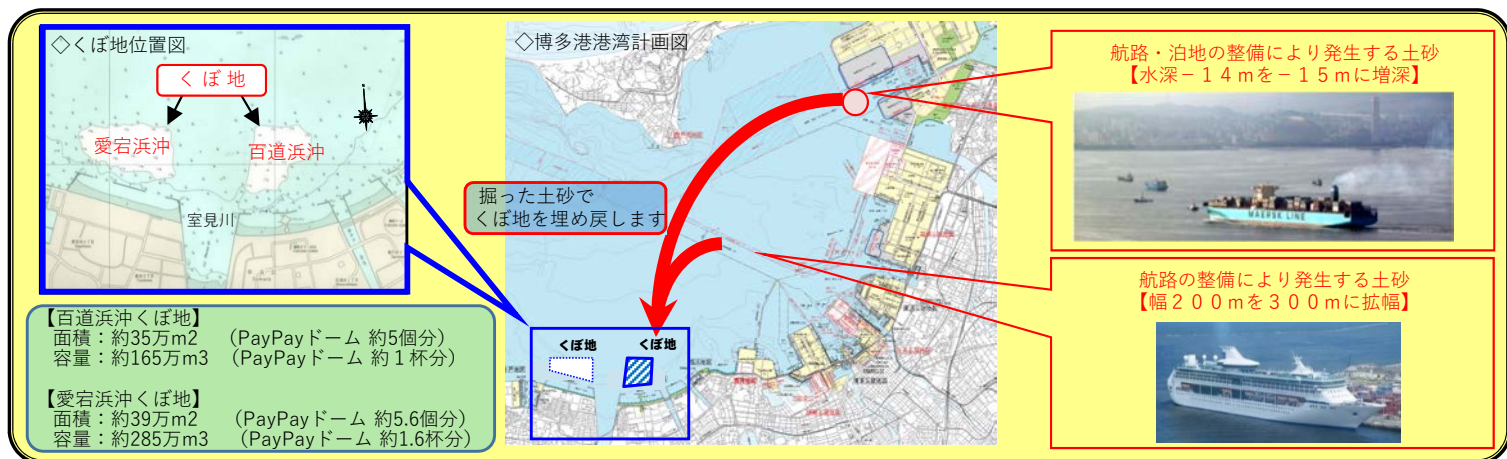
流木等漂流物(八代海)



流木回収「海煌」

海域環境の再生

博多港では百道浜沖と愛宕浜沖に、昭和50年代後半に行われた埋立事業の土取り跡が“くぼ地”として残り、夏季に酸素濃度の低い「貧酸素水塊」が発生。浚渫土砂を有効利用して“くぼ地”を埋め戻すことにより、水・底質環境や生物の生息環境の改善を図っています。

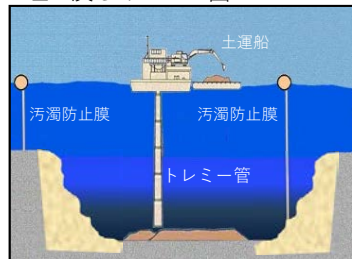


くぼ地を埋め戻して



●埋戻し方法
トレミー管と呼ばれる管を海底近くまで伸ばし、できるだけ濁りが出ないように慎重に土砂を投入します。

<埋め戻しイメージ図>



干潟体験学習

干潟体験学習は、日頃、入ることがない泥質干潟で泥や生物の観察を実施することを目的として、熊本港周辺の干潟にて生物種が多い春から夏にかけて実施しています。

干潟では、貝類、カニ類をはじめ、馴染みの深いアサリ、ハマグリや珍しいミドリシャミセンガイなど多くの生物を観察することができます。



干潟学習



干潟体験

様々な取組み

みなとオアシス

地域住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進しています。

○みなとオアシスとは

- ・地域住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進するため、平成15年に制度を設立
- ・住民参加による地域振興の取り組みが継続的に行われる施設として、国土交通省港湾局長が申請に基づき登録するもの

○みなとオアシスの担う役割

- ・地域住民、観光客、クルーズ旅客等の交流及び休憩
- ・地域の観光及び交通に関する情報提供
- ・その他（災害時の支援、商業機能 など）

○みなとオアシスの構成施設

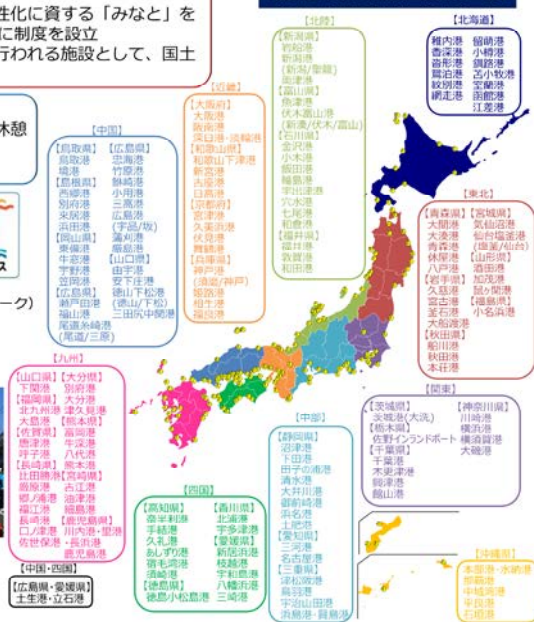
- ・旅客施設、展望施設、多目的ホール
- ・観光案内施設
- ・駐車場、トイレ、津波避難タワー
- ・産地直売施設、レストラン など



○みなとオアシスの設置者・運営者

- ・地方公共団体（港湾管理者含む）
- ・NPO団体、協議会 など

みなとオアシス所在港湾の一覧



支援制度

1. 登録証の交付
2. 全国への情報発信支援
(整備局HP、広報誌、シンポジウムなどでの紹介)
3. みなとの利用に対する規制緩和
(利用、運用に対する柔軟な対応など)
4. 他部局、関連機構との調整
(案内標識設置、関連事業との調整など)



構成施設のイメージ
(下関港、カモンワープ)



地域振興イベントの開催状況
(Sea級グルメ全国大会in沼津)

登録数 163箇所
(令和6年7月15日時点)



イベントの開催
かんたん港園（大分港）

i-Constructionの推進

建設現場における生産性を向上させ、魅力ある建設現場を実現するため、i-Construction（アイ・コンストラクション）の取組を進めています。

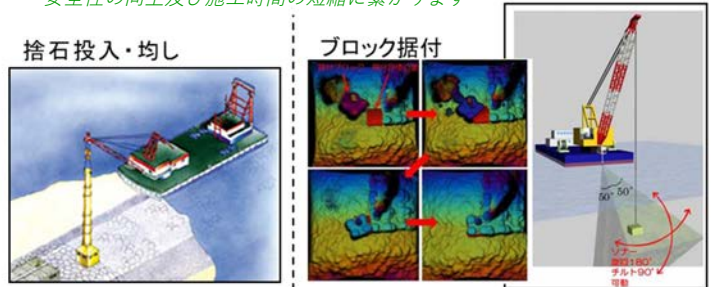
【ICTを活用した施工（浚渫）】

水中部の施工箇所をリアルタイムで可視化し施工を行うことができます



【ICTを活用した基礎工（投入・均し）、ブロック据付工】

水中部の機械化施工により
安全性の向上及び施工時間の短縮に繋がります



調査設計

港湾・海岸施設等の最適な設計を行うため、シミュレーションや数値解析では解明できない海の現象をよりの確に把握し、技術的課題を克服するため水理模型実験を行います。



実験施設



断面実験の様子



平面実験の様子

現場見学会等

港湾や空港整備について理解を深めていただくため、現場見学会や出前講座を開催しています。



現場見学会

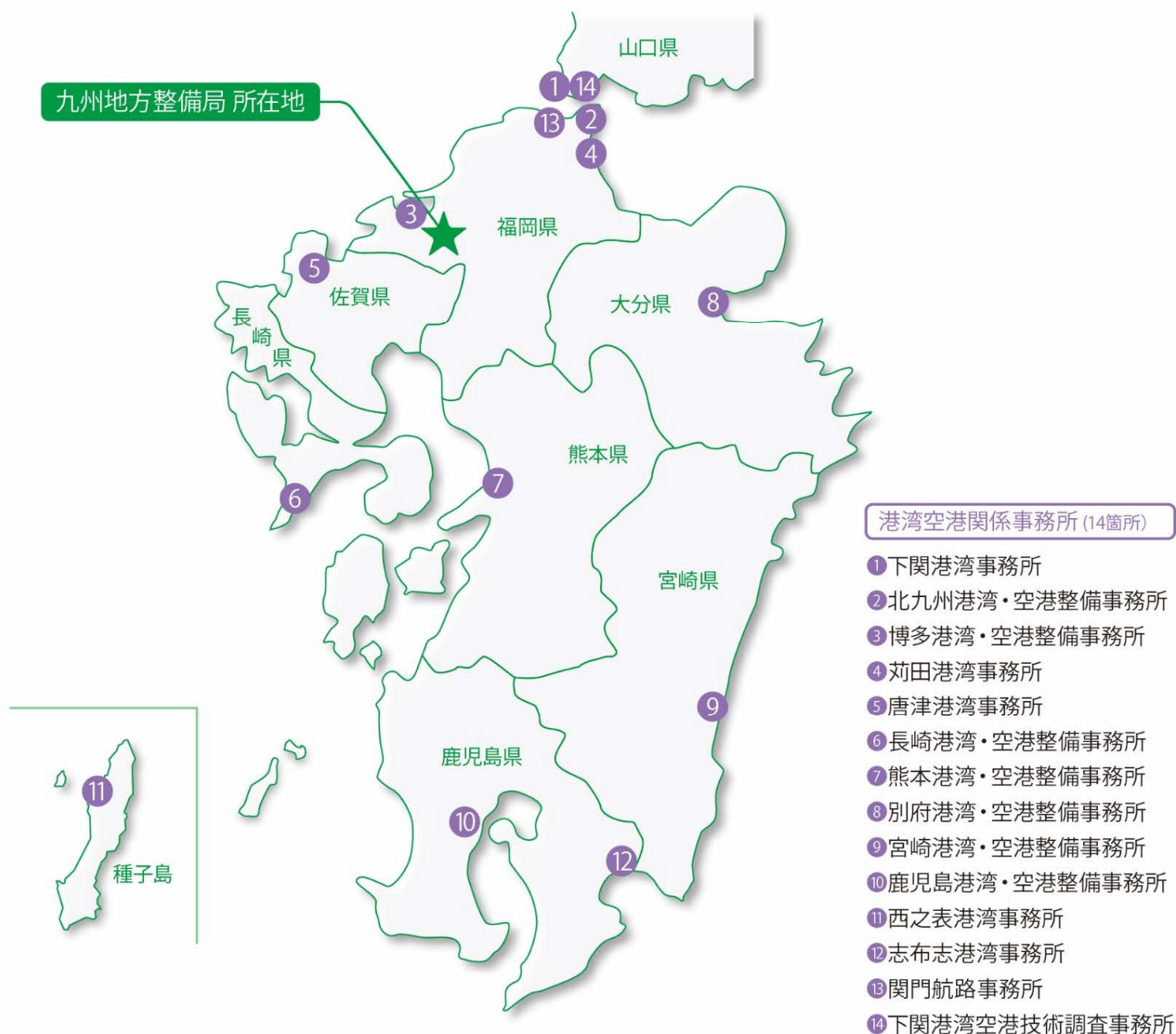
スキルアップ

職員の人材育成（技術力の向上、資質向上）を目的として、職場内研修の推進、職場外研修（各研修機関）に参加しています。



小型無人機操縦の研修

九州地方整備局港湾空港部の組織（管内事務所）



国土交通省 九州地方整備局 港湾空港部

〒812-0013

福岡県福岡市博多区博多駅東2丁目10番7号 福岡第二合同庁舎 3階

電話092-418-3340（代表）



国土交通省 九州地方整備局
港湾空港部



九州地方整備局
(採用情報)



九州地方整備局
instagram

